

# 鷹岡分署が完成

## 鷹岡地区の消防力が大幅にアップ

消防署鷹岡分署が大月線沿いに完成し11月25日から仕事を始めました。これで市内の守りは、消防署をはじめ富士分署、港分署、吉永分署、鷹岡分署と24の消防団で行なうことになり、市内の消防力が一段と充実しました。

これまで鷹岡地区で火災が発生すると消防署や富士分署などから消防車がかけつけ消火に当たっていました。しかし、大月線や富鷹線などは交通の混雑がはげしく、火災現場へ到着するまでに、時間がかかるようになりました。このため鷹岡地区に分署をつくる計画を立て、今年の

6月から工事をはじめましたが、このほど完成し11月25日開所式を行ないました。

鷹岡分署は鉄筋コンクリート造り2階建てで、総工費2270万円をかけて建設しました。1階は183.75平方メートルで、車庫、通信室、待機室など。2階は116.76平方メートルで、事務室、仮眠室があります。

25日からは分署長以下14名の職員で、仕事を始めましたが、水そう付消防ポンプ車1台が配置されています。なお、



将来は2台の消防車と救急車を配置してもいいように十分なスペースを取っています。

## 市医療救済条例の改正を12月定例会に提案

市では昨年の2月から大気汚染の影響によつて、慢性気管支ぜんそくにかかった小学生以下の児童に医療費を支給しています。さらに今年の2月からは、国の医療救済制度が適用され、指定地域内に住んでいるおとなも医療費が支給されるようになりました。

しかし、高煙突化などで大気汚染地域が拡大するおそれもあり、また指定地域外の市民から救済制度実施の要望も出ていました。このため、国の指定地域外に住んでいる人を対象に健康調査を行ないました。

調査は千葉大学医学部公衆衛生学教室(吉田亮教授)で、地域外に3年以上住んでいる40才以上の男女で600人を無作為抽出し、7月18日か

ら26会場で行ないました。調査項目は「セキ、タンは出るか」「息切れはするか」など51項目にわたる問診と血圧測定、肺活量などです。

調査結果を先に行なつた指定地域内の有症率と比較してみると、半分程度でした。しかし、鷹岡地区がほかの地域に比べやや有症率が高いように見受けられます。また指定地域に近接する場所では、有症率も高いと思われますので、よりきめの細かい調査を実施する予定です。

なお、この調査結果を検討した結果、市では社会福祉的な立場から指定地域外も国の医療救済なみの救済を実施することになり、市医療救済条例の改正を12月定例市議会に提案します。



【51項目の問診と血圧測定などを実施】

件数 222件  
(9月までに1844件)  
死者 3人  
(9月までに24人)  
負傷者 113人  
(9月までに1017人)



### 十月の 火災 交通 事故 件数



9件発生  
(9月までに61件)  
損害額 1196万円  
(9月までに6257万円)  
死者 1 傷者 1  
(9月までに死者2人  
負傷者7人)